

仮想壁を利用した立位年齢評価モデル

人間工学 泉 博之

利用分野

近年、高齢者が転倒によって救急搬送される事例が増えている。転倒事故を未然に防止するために簡易的に被験者の「立位年齢」を推定するシステムである。

シーズ

VLT装置に基づく立位機能評価方法（特開2014-168590、特開2016-214671）で提案した8個の評価指標をもとに重み付き絶対値総和を算出することで加齢に伴う立位機能の定量化を可能とした。



ニーズ

従来は、転倒等災害リスク評価セルフチェック（中央労働災害防止協会）、転倒リスク評価法（厚生労働省）などの主観的評価や病院外来で実施される筋力検査、片足立ち持続時間、重心動揺検査などがある。簡便な検査法の確立が望まれている。

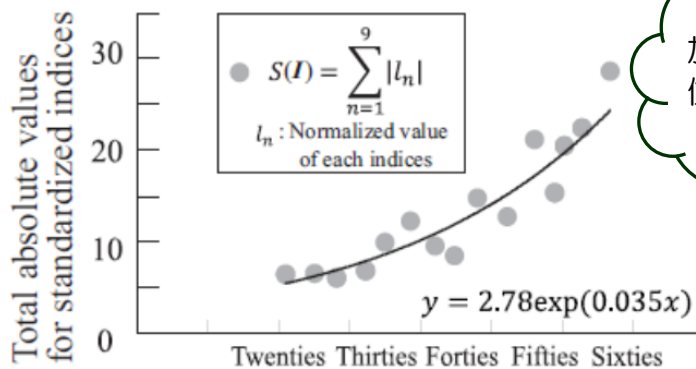
連携分野

転倒事故防止に取り組む企業とのフィールド調査や福祉・健康分野の商品開発を行う企業への技術移転。



知財保護

特願2017-047880



加齢に伴い立位機能は低下



本学マスコットキャラクター
ラマティー



産業医科大学 産学連携・知的財産本部
〒807-8555
福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号

問い合わせ先: 研究支援課
TEL: 093 (280) 0532
FAX: 093 (691) 7518
E-mail: chizai@mbox.pub.uoeh-u.ac.jp